

建築に夢を託して (アメリカ編)

エピローグ

“建築に夢を託して”を、ご精読して下さいまして有難うございました。

アメリカでの私の建築の経験を何らかの形で残しておこうと思い書き始めたのが7-8年前のことです。始めた頃は、恥ずかしい話ですが日本語のタイプがまったくできませんでした。手書きの原稿を日本の兄や妹に送って日本語の文を直してもらい、そしてタイプもしてもらっていました。

いつまでもそうしているわけにもいかず、だいぶ忘れかけていた日本語を思い出し、3-4年前から、日本語のタイプをWORDで習い始めました。恩師の船越先生にも原稿に目を通していただきました。いろいろ細かい建築のアドバイスのみならず、自分の私生活も少しでも書いた方が良いというアドバイスもいただきました。そして校正をしておきました。そして2年程前に柳先生からお話があり、ABUの会のWEB SITEに連載にしてみてもどうかという話があり、又、幹事の野崎さんからは沢山の写真を載せてくださいという話がありました。そこで、又、校正のしなおしをしました。昔の写真を探し出し、選別し、縮小して、原稿に載せていくのはまったく大変な作業でした。とんでもないことを始めてしまったと思いましたが、建築の話は写真がないとまったく理解しがたいので、苦勞して載せた甲斐があり、現実感が出た気がします。

ひとつのエッセイにまとめるのも大変でしたが、まとめてみたものを読んでみると、まあよくやってきたものだ和我ながらため息が出る思いでした。それはおそらく母校の教えの精神の基盤や、先生、友人、家族の何かの意識が常に私の頭のどこかにあったから私の建築に対する態度を強くしてくれたのかと思います。人は夢を持って生きることが大切だと、そしてやれば何とかできるのだということはこの建築のエッセイを通じて、私は若い人たちに伝えたかったのです。

このエッセイを作るにあたっていろいろアドバイスやご協力をいただいた方々にこの場をお借りして、お礼を述べさせていただきたいと思います。

恩師、船越先生は、いつになっても私の先生です。尊敬のみならず、本当に、心より感謝をしております。

“建築に夢を託して”は兄や妹がいなかったら書き始められなかったと思います。感謝をしています。

柳先生や野崎さんには日本にいた頃からの親友でお世話になり通しです。この

連載を ABU の会の Web-Site に載せるにあたってもお世話になりました。大変感謝しております。

土田さんにはこの連載を Web-Site に載せるのに、最初から最後まで1年以上お世話になりました。よくやっていただきました。本当に有難うございました。

私の建築の人生はまだまだ続きます。それは私は、Architectural Filter（建築家のめがね）を通して物事を見、Architectural Scale（建築家の尺度）で物事をはかり、そして Architectural Value（建築家の価値観）で生きようになってしまったからです。建築学科の学生と同じように建築を学び続け、若い建築家と同じように未来の建築に向かって設計し続け、熟年の建築家と同じように良い建築とは何かと考え続け、そして定年をまじかにしている建築家と同じように人生とは何かと考え続けて、生きていきたいと思っています。

最後に、私の建築の人生をサポートしてくれている妻に感謝しております。

“君の行く道は、果てしなく遠い、
なのになぜ歯をくいしばり、君は行くのかそんなにまで、、、、、、、”
学生時代から口ずさんでいた歌です。
中国に行って、仕事に行き詰った時、
嫌気が差して、もうやめようかと思
った時も、なぜかこの歌を口ずさん
でしまった。



ロサンゼルスにて
井上邦雄

建築家井上邦雄

2010年4月1日

